

サステナブルな未来に向けたマテリアリティ（重要課題）

フューチャーグループは、科学・技術が人びとの幸福に貢献するサステナブルな未来の実現に向けて、克服すべき社会課題や「持続可能な開発目標 (SDGs)」の 17 のゴール、さらには経営戦略と IT 戦略の両輪で経済社会の DX を推進してきたという歴史と経営理念、これまで培ってきた知見とノウハウなどを勘案し、優先的に取り組むべき重要課題について ESG&SDGs 推進委員会が中心となり、グループ横断的な検討を行いました。この検討を経て、以下の 6 つの「マテリアリティ」が抽出され、2022 年 8 月度の取締役会において決定されました。

フューチャーグループは、これらのマテリアリティについて、その時々を経済社会情勢や環境、技術革新などの変化を踏まえながら、今後も定期的に見直しを図っていきます。



地球環境と課題解決に貢献するソリューション



フューチャーグループは、AI、IoT、ロボティクスといった最新テクノロジーの活用による環境負荷の低いシステムの構築や効率的なソースコードの作成などを通じて、経済活動の DX と効率化、脱炭素化、省資源化に資するソリューションを幅広く提供しています。そのための技術開発やイノベーションの創出に積極的に取り組み、社会全体の DX 推進と社会課題の解決に貢献するとともに、グループの企業価値向上を図っていきます。

IT・デジタル技術を活用した新たな価値の創造



フューチャーグループは、IT・デジタル技術を第一次産業やデジタルマーケティング、スポーツ、教育、医療など様々な分野に応用し、これらの融合を進めることで、それぞれの価値を高めていく取組みを積極的に推進しています。こうした活動を通じて、IT・デジタル技術を人びとの暮らしの豊かさや厚生を増大につなげていきます。あわせて、デジタル時代には不可欠なサイバーセキュリティやデータ保護にも取り組んでいきます。

事業活動における省資源・省エネルギー化の推進



フューチャーグループは地球市民としての自覚のもと、自らの事業活動においてパソコン、モニターなどの再利用やリサイクルをはじめ、ペーパーレス化、節電、ごみの削減に取り組んでいます。また働きやすい環境づくりの一環として、テレビ会議やリモートワークができる環境を先駆けて整備し、コロナ禍の感染ピーク時には最大 90%超のリモートワーク率を実現しました。さらなる環境負荷低減に向けて省資源化・省エネルギー化を推進します。

科学と技術に基づく検証・モニタリング



環境関連の取組みの効果は、科学的なデータに基づき検証される必要があります。たとえば、燃料電池等の次世代エネルギーはその製造過程における環境負荷も問われなければならないし、リモートワークを推進する上では、これによるオフィス外での電力消費の影響なども本来把握に努める必要があります。フューチャーグループは、「2050年までのカーボンニュートラル達成」という目標を掲げるとともに、そこに至るプロセスや各種活動の効果について、科学と技術に基づく定量的な検証に努めます。

企業市民としての責務の遂行



フューチャーグループは各種法令を遵守し、コンプライアンスを徹底した経営を行います。また、これからの時代に不可欠なサステナビリティに配慮したシステム・業務をデザインできる人材の育成に努めるとともに、従業員のワークライフ・バランスに配慮し、透明かつ柔軟な組織運営と積極的な情報開示を行っていきます。フューチャーグループは人権と多様性を尊重し、人種、民族、ジェンダーなどのあらゆる差別に反対します。

広範な主体とのコミュニケーションの推進



フューチャーグループは、多様なステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、サステナビリティや地球環境、多様性、公正性、包摂性に関する理解の共有と深耕に努めています。この観点から 2006 年には社会貢献団体として任意団体「フューチャーイノベーションフォーラム」を設立し、様々な企業・団体と連携してビジネスパーソンや子どもたち向けのプログラムを実施しています。これまでに開催した 180 以上のイベントに参加した社員数はのべ 1,000 名を超え、活動に参加した時間はのべ 10 万 2,000 時間に上ります。今後も積極的に取り組んでいきます。